

鹽竈神社 花まつり

花まつりの由来

花まつりの見どころ

神輿といえば威勢の良い掛け声ですが、花祭りの神輿は少し違います。白丁と呼ばれる白い装束に身を包んだ輿丁が覆面をして一切の掛け声を発することなく、鐘と太鼓・雅楽が流れる中をしづしづと進む姿が神聖です。また、鹽竈神社の桜の見頃は4月下旬から5月上旬なのでお花見をしながら花まつりを楽しむことができます。

江戸中期、仙塩地方では天候の不順などにより不作が続いていました。それを憂いた氏子が鹽竈神社に祈願したところ、気候も安定し農作物の作柄も良くなったそうです。豊作への感謝の意を込めて、1778年に神輿を出し御神幸することになったのが、花まつりの始まりです。昭和60年に市民の総意に基づき祭日を4月の第4日曜日に行なわれるようになり、桜の花が満開の時期であることから「花祭」と称するようになりました。

簡単！桜海老ごはん

花見に欠かせないのがお弁当！ということで手軽に作れる桜エビご飯をご紹介します。お花見のお供にしてみたいはいかがでしょうか？

作り方

といだ米に昆布出汁を入れ、塩をお好みで入れる。
(スプーン1杯がちょうど良い)

↓
桜海老を入れる。(おすすめはこぶし一握り分)

↓
炊き上がったらかき混ぜて完成！
色鮮やかな桜海老ご飯のできあがり。



材料

米	2合
桜海老(乾燥)	適量
昆布出汁	2合
塩	少々

お花見が終わった後は、桜の花びらを拾って押し花にしてみたいはいかがでしょうか？桜だけでなく四葉のクローバーを使っても楽しめます。

材料：押し花にしたい花や草
重り(分厚い本や雑誌)
ティッシュペーパー
新聞紙
ピンセット

押し花の作り方

- ① 花と葉を分け、下処理をする
- ② 1日分の新聞紙の上にティッシュペーパーを敷きその上に花を置く
- ③ ②の上にティッシュペーパーを敷き、その上に1日分の新聞紙をのせる
※複数作りたい場合は、②③を繰り返して一番上が新聞紙になるようにする
- ④ ③の上に分厚い本を置き3~4日おいておく
- ⑤ 花が乾燥していれば完成

押し花で思い出を残す



今後の予定

○団だより5月号4月30日(日)配布予定

今回のテーマ「花柳粉症」または「春」

川柳紹介

衣食住 ひっちゃかめっちゃか 花粉症

P.N. バーバ

雪解けに 輝きはなつ

P.N. カスミソウ マスター